

2018年4月6日記

インマヌエルの諸教会の先生はじめ教会員ご一同様

“あなた方はこれらのことの証人です” ルカ 24:48

イースターを超えて、自然界にも生命の息吹がみなぎり始め、喜びが伝わって参ります今日この頃となりました。2千年前に復活された主イエス様の生命が、今もなお、豊かに信じる私達の心に注がれております事実を目を留め、「我が内に在すキリスト」の御臨在を朝に、昼に、夕に確認させて頂きたいと渴きを覚えつつの日々を過ごしております。

常の尊い御祈りを心から感謝申し上げます。イースターの喜びを御分かちするカードの変わりにこのニュースレターをお届けして、御祈り頂きおります事への感謝と共に近況報告をお送りもうしあげます。

特別に健康の為に御祈りを頂きながらの御奉仕を続けておりますが、整形外科の医師が腰のMR Aの写真を御覧になって、「この写真で見る限り、先生がこの体でカンボジアを往復できているのは、“神の御手” としか思えません」とのコメントに、如何に背後の御祈りの力が強い支えとなっておりますか、を再確認しました。只今は鍼灸治療で痺れがとれるように、と願いながら、とりあえず、5月の再渡航まで、4月一杯を治療に用いております。主の御手が置かれますよう、引き続き御祈りに覚えて頂けましたら幸いです。

《Vandy 先生、ダビデ君、テス夫人御一家》

《一人息子とお母様,Tess 師と日本のグランマ》



毎週金曜日に、プノンペン市内にて労するKCCの働き人との祈禱会です。右はそのメンバーです。

時々OMFの伝道者や、平信徒としてビジネスをし乍ら伝道しているレアック兄も加わりますがKCCの働き人としてはこの4名がレギュラーメンバーです。向かって右から；

Vandy 先生、Greg 宣教師(比国人)、一人おいて、Mark 宣教師(米国人)です。昨年、Mark 宣教師はバイク事故で肋骨がおれる大怪我、只今快復途上にあります。カンボジアでは交通事故があっても警察の人がくる

前にみんな逃げて被害者はなす術なし、救急車をよんでも、先ず「500ドル払えるか？」と質問されます。殆どの被害者は出せません。すると救急車は人が置いてさっさと帰ってしまいます。マーク先生も自分で病院に行かれたそうです。

《カンポンチュナン州地区の教会》 (プノンペン市から車で約2時間半位です)



巡回で地方教会を訪れました。一番右側の男性が平信徒の伝道者、レアク兄で、この巡回の為に自動車を運転して回って下さいました。真ん中の御二人はこの教区で牧する牧師さんで、私が訪問したという事で礼拝を合同で守るために集まりました。黄色い上着の御婦人は真ん中の牧師さんの妹にあたる方です。実は彼らのお父様は医者でしたが、ポルポト政権の時投獄され、足に鎖をつけられて日々重労働を課せられながら、ブツダに祈っても助けてくれなかった、という事から、イエス様の事を聞いて真実の神様を信じ、医者業を止めて牧師になられました。2、3年前、天に召された御報せを頂きましたがその息子さんや子供さん方は牧師やクリスチャンホームを築いて牧会を助けておられます。

礼拝が終わった後で、この家の教会の牧師ペン先生のお母様が病いの床についておられながら、メッセージを聞いておられるのに気が付きました。心に促しを覚えて、そのベッドに行き、レアク先生の通訳により、救いの信仰に導かせて頂く恵に与り感謝でした。昨年12月に再度カンボジアに赴きましたら、お母様が天にめされたとの御報せをうけましたが、主の十字架の恵の裡に世を去られた事が確かであるという事を伺い御名を崇めました。量りしれない主の愛と恵の深さ、広さ、高さを思う事です。

もう一つの村の伝道所に集まって来られた方々です。



この度は新しい本部、宣教師館などの建物が与えられ、今年の年末頃には献堂式ができるのではないかと聞いております。

8月に大統領選挙を控え、政情が不安定の中に無事に建設が終わり、伝道活動が本格的にスタートし、救霊の御業が力強く進められますように御祈りの御支援を宜しくお願い申し上げます。又、教報の広げた翼で何回か御報告とお願いをしております Vandy 先生の息子さんの発達障害の問題の為にも、御祈り下さい。先生は伝道に全精力を注いでおられますが、背後からの癒しと経済的戦いの為の御祈りが必要です。祈り頂けましたら感謝です。御教会の上に御祝福を御祈り申し上げつつ、感謝と御礼に代えさせて頂きます。 在 主、 蔦 田 緑 乃 2018年4月4日記

集会の後、一人の御婦人が病をもつて居られるという事で皆さん方と心を合せて癒しの御祈りを捧げる時を持ちました。

